

平成16年度  
食品安全確保総合調査

「食品等に係るかび毒・自然毒の  
リスク評価に関する情報調査」

報告書

平成17年3月  
財団法人 国際医学情報センター

## 目次

I. 調査の概要	• • • • •	1
II. 調査方法	• • • • •	3
III. 原因物質一覧表	• • • • •	4
IV. 原因食品・汚染食品一覧表	• • • • •	6
V. 収集文献一覧表	• • • • •	8

## I. 調査の概要

### 1. 業務件名

「食品等に係るかび毒・自然毒のリスク評価に関する情報収集調査」

### 2. 調査業務の目的

本調査は、食品又は飲料に係るかび毒及び自然毒に関する学術文献等の調査・整理、データベース化等を行い、内閣府食品安全委員会がかび毒・自然毒に関するリスク評価を円滑、迅速かつ効率的に実施するための基礎的資料の作成を目的とする。

### 3. 調査業務の必要性

発がん性物質のひとつとして挙げられているアフラトキシンをはじめとするかび毒汚染の多くは、輸入食品で多くの発生がある。また、植物性自然毒（きのこ、食用植物、食用に誤用される有毒植物等）、動物性自然毒（魚介類等）は、本邦において多くの発生があり、平成 15 年の発生状況は、植物性自然毒は患者数 229 名、死者 2 名、動物性自然毒は患者数 79 名、死者 3 名であった。

今後、リスク評価を行う上で、上記のかび毒・自然毒に関する最新の科学的知見、国内外の発生事例、そして国際機関や諸外国の規制等を把握しておくことは重要である。

### 4. 調査業務の項目

仕様書に基づき、以下の各項目の調査業務を行う。

- (1) かび毒及び自然毒に関する科学的文献、報告及び諸外国の示す規制等の調査食品に係るかび毒及び自然毒（植物性及び動物性自然毒（水圏性を含む））に関する科学的文献及び書籍、国内外の調査事例報告及び健康被害報告、国際機関又は諸外国の示す規制にかかわる資料等を調査し、体系的に整理する。

#### 1) 調査対象

かび毒、植物性自然毒（きのこ、食用植物、食用に誤用される有毒植物等）、動物性自然毒（魚介類等）の原因物質又は原因食品等を調査対象とする。

## 2) 調査内容

- ① 原因物質の物理化学的性状、生物学的性状、毒性研究などの科学的論文
- ② 国内外の食中毒事例（誤食を含む）、食品汚染事例又は調査事例、国内外の汚染食品による健康被害事例の報告
- ③ 国内外の食中毒（誤食を含む）、汚染食品および健康被害事例に関する統計的報告
- ④ 原因物質を含む動植物等の食品としての利用・流通実態、原因物質の含有量等
- ⑤ 以下に代表される国際機関の報告（規制値に関する意見を含む）、諸外国が設定する規制値及びその根拠となる報告
  - ・ FAO/WHO 合同食品規格委員会（コーデックス委員会）
  - ・ FAO/WHO 合同食品添加物専門会議（JECFA）
  - ・ コーデックス委員会食品添加物・汚染物質部会（CCFAC）
  - ・ 国際がん研究機関（IARC）その他

## (2) 調査の結果の分析

上記（1）の結果を踏まえて、原因物質及び原因食品（誤用を含む）を列挙し、整理する。

## (3) データベースの作成

上記（2）の結果を踏まえて、原因物質及びそれに係る食品等のデータを体系的に整理するとともに（データベースの作成）、作成にあたって必要な文献・報告書・書籍等を300種以上収集し、整理する。

なお、データベースに記載する原因物質数は以下の条件に沿い、食品衛生上、重要度の高い物質を対象に最終的に124種類（別添参照）とする。

- ① かび毒の原因物質として10種類以上
- ② 植物性自然毒（きのこ、食用・誤食植物、藻類等）の原因物質として30種類以上
- ③ 動物性自然毒（魚介類等）の原因物質として10種類以上
- ④ 原因物質は不明であるが、摂取することによって健康被害を生ずるかび毒・自然毒に係る食品（誤食を含む）の情報5種類以上

## II. 調査方法

1. 内閣府食品安全委員会の選択による原因物質および原因不明の毒について健康被害・毒性・疫学調査・サーベイランスなどをキーワードとして各種データベース<sup>注1)</sup>の検索、またインターネットの Web 検索を行った。
2. 検索結果の資料の中から、本業務内容に適する資料を、タイトル、抄録、キーワード等の中から選択し、国内または Web で所蔵可能なものを 1,116 件入手した。
3. 入手した資料の内容については、原因物質に基づいて毒性試験、疫学調査、あるいは食中毒事例報告、サーベイランスなどに分類し、試験の種類、方法、標的臓器、毒性試験結果、また発生地域、発生規模、発生時期、汚染食品と汚染状況、臨床症状や治療、疫学研究、デザイン、原因物質の検査、調査結果、対象国、調査期間などを抽出し、データベースとした。  
また原因物質の性質や各国の規制情報、出典情報もデータベース化し、各々関連づけた。

### 注1) 使用データベース

- (1) MEDLINE
- (2) Tox File
- (3) JMEDPlus
- (4) 医中誌 Web
- (5) JSTPlus
- (6) Food Science & Technology Abstracts

### Ⅲ. 原因物質一覧表

#### 1. かび毒(14種)

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| (1) アフラトキシン(Total)+M | (8) ステリグマトシスチン |
| (2) バッカクアルカロイド       | (9) パツリン       |
| (3) オクラトキシンA         | (10) シトリニン     |
| (4) T-2 トキシン         | (11) ニバレノール    |
| (5) ゼアラレノン           | (12) ルブラトキシン   |
| (6) デオキシニバレノール       | (13) ルテオスカイリン  |
| (7) フモニシン(Total)     | (14) シトレオビリジン  |

#### 2. 植物性自然毒(67種)

- |                                   |                            |
|-----------------------------------|----------------------------|
| (1) アトロピン                         | (28) プロトベラトリン              |
| (2) コルヒチン                         | (29) イルージンS                |
| (3) Purpurea glucoside類(ジギタリスとして) | (30) コンバラトキシン              |
| (4) ムスカリン                         | (31) アクロメリン酸               |
| (5) スコポラミン                        | (32) ジロミトリン(ヘルベル酸として)      |
| (6) アマニチン類                        | (33) クリチジン                 |
| (7) イボテン酸(ムシモールとして)               | (34) シロシビン群(ジムノピリンとして)     |
| (8) イボテン酸                         | (35) トリコロミン酸               |
| (9) Purpurea glucoside類           | (36) ファシクロールE,F            |
| (10) 配糖体サイカシン                     | (37) プホテニン                 |
| (11) ソラニン                         | (38) オレラニン                 |
| (12) アコニチン                        | (39) フォルボールエステル            |
| (13) アマニトキシン群類                    | (40) ミクロシスチン               |
| (14) アミグダリン                       | (41) シリンドスペルモプシン           |
| (15) ヒヨスチアミン                      | (42) プロスタグランジン             |
| (16) リナマリン                        | (43) プタキロサイド(ワラビ)          |
| (17) グラヤノイド                       | (44) プロゴイトリン(アブラナ科;キャベツ等)  |
| (18) ジロミトリン                       | (45) ピロリチジン系アルカロイド(コンフリー等) |
| (19) コニイン                         | (46) アミノプロピオニトリル(スイトピー)    |
| (20) トマチン                         | (47) アリルプロピルジスルフィド(タマネギ)   |
| (21) ファロトキシン類                     | (48) スパルテイン(エニシダ)          |
| (22) ククルビタシン                      | (49) アンドロメドトキシン(シャクナゲ等)    |
| (23) コプリン群                        | (50) タキシン(イチイ)             |
| (24) ルパニン                         | (51) ナンテニン(ナンテン)           |
| (25) シクトキシン                       | (52) シマリンやアドニトキシン(フクジュソウ)  |
| (26) アブラギリ毒                       | (53) ロデインやロデキシン(オモト)       |
| (27) シロシビン群(シロシンとして)              | (54) ビキュキュリン(キケマン)         |

- |                            |               |
|----------------------------|---------------|
| (55) サイクロパミン(バイケイソウ)       | (62) ベラトラミン   |
| (56) ホルボール類(ポインセチア)        | (63) シニグリン    |
| (57) 植物エストロジェン(ダイゼイン、ダイズ等) | (64) ゴシボール    |
| (58) クメストロール(レッドクローバー)     | (65) ゲルセミン    |
| (59) テトラヒドロカンビノール(アサ)      | (66) タキソール類縁体 |
| (60) フォルスコリン(コレウス・フォルスコリ)  | (67) リンコフィリン  |
| (61) ヒドロキシクエン酸(ガルシニア)      |               |

### 3. 動物性自然毒(27種)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| (1) テトロドトキシン     | (15) ピロフェオフルバイド    |
| (2) サキシトキシン      | (16) ジノグネリン        |
| (3) オカダ酸         | (17) シプリノール        |
| (4) シガトキシン       | (18) プロスルガトキシン     |
| (5) プレベトキシンB     | (19) リングビアトキシンA    |
| (6) パリトキシン       | (20) Ctキシン         |
| (7) ジノフィシストキシン   | (21) イエツトキシン       |
| (8) マイトキシン       | (22) フェオフルバイドA     |
| (9) ネオスルガトキシン    | (23) コトキシン(イモガイ)   |
| (10) ドウモイ酸(ムール貝) | (24) ブンガロトキシン(へび)  |
| (11) アザスピロ酸      | (25) マストパラン(スズメバチ) |
| (12) ゴニオトキシン     | (26) ラトロトキシン(ゴケグモ) |
| (13) テトラミン       | (27) ミクロシスチン(アオコ)  |
| (14) ペクテノトキシン    |                    |

### 4. その他の自然毒

- (1) 強心配糖体(Purple glycoside除く)

### 5. 原因不明の毒(汚染食品 15種)

- |                            |              |
|----------------------------|--------------|
| (1) コイ                     | (9) スギヒラダケ   |
| (2) ヤシガニ                   | (10) アオブダイ   |
| (3) 果汁飲料(リンゴ、ミカン類、ブドウ類等)   | (11) ボラ(ヒメジ) |
| (4) 小麦                     | (12) エゾワスレガイ |
| (5) コメ                     | (13) アイゴ     |
| (6) コーン                    | (14) ウミガメ    |
| (7) ナッツ、落花生、ピスタチオ類         | (15) モズク     |
| (8) キノコ(ニオウジメジ、マイタケ、エリンギ等) |              |

## IV. 原因食品・汚染食品一覧表

### 1. 穀類

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| (1) どうもろこし  | (13) 玄麦              |
| (2) コーンフラワー | (14) ビール麦            |
| (3) コーン油    | (15) きび              |
| (4) ジャガイモ   | (16) そば              |
| (5) 茶米      | (17) パン              |
| (6) 米       | (18) うどん             |
| (7) 玄米      | (19) 乳幼児食品(ビスケット・米菓) |
| (8) むか      | (20) ひきわり粉           |
| (9) 小麦      | (21) トウモロコシパン        |
| (10) 大麦     | (22) 麦角製剤            |
| (11) ライ麦    | (23) パイ              |
| (12) ハト麦    | (24) 雑煮              |

### 2. 豆類

- |              |              |
|--------------|--------------|
| (1) 生落花生     | (7) ピーナッツ油   |
| (2) 落花生      | (8) ピスタチオナッツ |
| (3) ピーナッツ    | (9) ナッツ      |
| (4) ピーナッツ加工品 | (10) 豆       |
| (5) ピーナッツ殻   | (11) 大豆      |
| (6) ピーナッツバター | (12) エンドウ豆   |

### 3. キノコ

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| (1) きのこ         | (13) ヒカゲタケ   |
| (2) マジックマッシュルーム | (14) ワライタケ   |
| (3) テングタケ       | (15) ドクツルタケ  |
| (4) シビレタケ       | (16) ヒメマツタケ  |
| (5) カヤタケ        | (17) シラフタケ   |
| (6) アセタケ        | (18) シイタケ    |
| (7) カエントケ       | (19) マイタケ    |
| (8) ニガクリタケ      | (20) エリンギ茸   |
| (9) ツキヨタケ       | (21) ドクササコ   |
| (10) ムキタケ       | (22) 食用アガリ斯克 |
| (11) ヒラタケ       | (23) マツタケ    |
| (12) ウスムラサキシメジ  | (24) スギヒラタケ  |

### 4. 植物

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| (1) トリカブト       | (18) バイケイソウ         |
| (2) ジギタリス       | (19) アブラギリ          |
| (3) コンフリー       | (20) ガルシニアエキス       |
| (4) ワラビ         | (21) エキナシア(薬草)      |
| (5) モロヘイヤ       | (22) ビタースイート(ナス科の草) |
| (6) ニリンソウ       | (23) イヌサフラン         |
| (7) コゴミ         | (24) 漢方薬            |
| (8) キョウチクトウ     | (25) ドクゼリ           |
| (9) フクジュソウ      | (26) 栄養補助食品         |
| (10) チョウセンアサガオ  | (27) 毒ニンジン          |
| (11) 漢方薬(八味地黄丸) | (28) ソテツ            |
| (12) 漢方薬(人參湯)   | (29) ゆり根            |
| (13) 杏仁エキス      | (30) ヨモギギク          |
| (14) 蜂蜜         | (31) ハーブ(薬草・茶)      |
| (15) リンゴ花       | (32) イチイ            |
| (16) ホツツジ       | (33) ヨモギ            |
| (17) シャクナゲ      | (34) 緑色野菜           |

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| (35) 茶葉    | (43) コシヨー         |
| (36) はすの実  | (44) 乳幼児食品(野菜スープ) |
| (37) ゴマ    | (45) ルピナス         |
| (38) スパイス  | (46) 綿の実          |
| (39) チリ    | (47) ブラックベリー      |
| (40) ガーリック | (48) シュロソウ        |
| (41) パプリカ  | (49) ポインセチア       |
| (42) ナツメグ  |                   |

#### 5.果実

- |             |               |
|-------------|---------------|
| (1) 青梅      | (5) りんご加工品    |
| (2) イチジク    | (6) 乳幼児食品(果汁) |
| (3) ブドウジュース | (7) イチゴ       |
| (4) りんごジュース |               |

#### 6.動物

- |         |         |
|---------|---------|
| (1) 豚   | (5) 七面鳥 |
| (2) 馬   | (6) キジ  |
| (3) トリ  | (7) アヒル |
| (4) ラット |         |

#### 7.海洋動物・魚類

- |              |              |
|--------------|--------------|
| (1) アブラソコムツ  | (10) サケ      |
| (2) フグ       | (11) マガレイ    |
| (3) アオブダイ    | (12) カダヤシ    |
| (4) 鯉        | (13) ニッポンヒトデ |
| (5) 毛ガニ      | (14) バラハタ    |
| (6) ヤシガニ     | (15) ドクカマス   |
| (7) ウモレオウギガニ | (16) ドクウツボ   |
| (8) ミドリガニ    | (17) クラゲ     |
| (9) サバ       | (18) ニジマス    |

#### 8.藻類

- |         |           |
|---------|-----------|
| (1) モズク | (3) オゴノリ類 |
| (2) アオコ |           |

#### 9.貝類

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| (1) アサリ       | (11) マテガイ            |
| (2) カキ        | (12) イカイ(イガイ)        |
| (3) ザルガイ      | (13) ホッキガイ           |
| (4) フジツガイ科巻貝  | (14) バカガイ            |
| (5) アクキガイ科巻貝  | (15) サラガイ            |
| (6) エゾバイ科巻貝   | (16) オオカラフトバイ        |
| (7) カンムリボラ科巻貝 | (17) アカボラ            |
| (8) 二枚貝       | (18) セイヨウトコブシ(藻食性巻貝) |
| (9) ホタテガイ     | (19) ヨーロッパボラ(肉食性巻貝)  |
| (10) ムラサキイガイ  |                      |

#### 10.乳製品

- |              |         |
|--------------|---------|
| (1) ナチュラルチーズ | (2) 乳製品 |
|--------------|---------|

#### 11.その他

- |         |                |
|---------|----------------|
| (1) 飼料  | (3) アルコール      |
| (2) 飲料水 | (4) エルゴタミン含有製剤 |

## 収載文献一覧表

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500001	日本熱帯医学会雑誌 楠部国泰:箕山博夫:神田実喜男:他	1991	19	3	229	237
					熱帯地域における各種急性肝障害の肝細胞病変を主とした病理組織学的的特異性 妊娠中毒症、肝炎ウイルス性劇症肝炎、黄熱アフラトキシン中毒症の比較検討	
500002	防菌防黴 熊谷進	1993	21	1	39	47
					マイコトキシンの毒性 アフラトキシン、オクラトキシン、フモニシン	
500003	食品衛生学雑誌 粟飯原景昭:一戸正勝:前田協一:他	1985	26	3	234	242
					輸入生落花生の保管とアフラトキシンの二次汚染について	
500004	Mycotoxins Arim RH	2001	50	1	23	26
					Recent status of mycotoxin research in the Philippines	
500005	Mycotoxins Suprasert D	2000	50	1	27	29
					Recent status of mycotoxin research in Thailand	
500006	Biosci Microflora El-Nezami H:Mykkanen H:Kankaanpaa P:他	2000	19	1	41	45
					Ability of a mixture of lactobacillus and propionibacterium to influence the faecal aflatoxin content in healthy egyptian volunteers: A pilot clinical study	
500007	Hepatol Res Yi J :Abe K:Sato Y:他	2002	24	4	379	384
					Hepatitis B and C virus infection and p53 mutations in human hepatocellular carcinoma in Harbin, Heilongjian Province, China	
500008	Environ Health Prove Med Lu FC	2003	7	6	235	238
					Assessment of safety/risk vs. public health concerns: aflatoxins and hepatocarcinoma	
500009	食品衛生研究 山岸善樹:佐藤史郎:師岡俊行:他	1983	33	12	1133	1138
					各種食品におけるかび毒に関する調査について	
500010	Kitasato Arch Exp Med Sutabhaha S:Suttajit M:Niyomca P	1992	65	1	45	52
					Studies of aflatoxins in chiang mai, Thailand	
500011	Jpn J Infect Dis Ding X:Park YN:Taltavull TC:他	2003	56	1	12	18
					Ggographic characterization of hepatitis virus infections, genotyping of hepatitis B virus, and p53 mutation in hepatocellular carcinoma analyzed by In situ detection of viral genomes from Carcinoma Tissues:	
500012	食品衛生学雑誌 斉藤和夫:西島基弘:安田和男:他	1984	25	3	241	245
					市販ピスタチオナッツ・コーン及びコーンフラワーのAflatoxin及びAflatoxicol汚染調査	
500013	食品衛生学雑誌 Tabata S:Ibe A:Ozawa H:他	1998	39	6	444	447
					Aflatoxin contamination in foods and foodstuffs in Tokyo: 1991-1996	
500014	衛生試験所報告 一戸正勝:Kartastisna A:平井和人:他	1988		106	25	29
					インドネシア産生薬由来の Aspergillus flavus のアフラトキシン生産性	
500015	臨床科学 奥田邦雄	1988	24	6	693	697
					肝細胞癌の疫学 -地理病理学的立場から-	

文献管理番号	出典 著者	発行年 標題	巻	号	開始ページ	終了ページ
500016	兵庫県立衛生研究所年報 武田信幸	1996 輸入食品中のアフラトキシン検査 10年間のまとめ	31	164	167	
500017	Mycotoxins Ali N	2000 Aflatoxins in Malaysian food	50	31	35	
500018	食品衛生学雑誌 田端節子:上村尚:田村行弘:他	1987 アフラトキシンの食品汚染実態とその推移	28	5	395	401
500019	Mycotoxins 岡野清志	2001 輸入時におけるイラン産ピスタチオナッツのアフラトキシン検査結果について	51	2	83	85
500020	Mycotoxins 伊藤嘉典:前田協一:粟飯原景昭	2001 輸入剥き実生落花生のアフラトキシン汚染調査(1972~1991)	51	13	24	
500021	Mycotoxins 岡野清志:富田常義:長南正貴	2003 輸入生落花生のアフラトキシン検査について(1994~2000)	53	1	25	29
500022	Mycotoxins Suprasert D	2000 Recent status of mycotoxin research in Thailand	50	27	29	
500024	埼玉県衛生研究所報 星野庸二:堀江正一:飯島正雄:他	1992 食品中のアフラトキシン類の調査	25	223	224	
500025	Mycotoxins 伊藤嘉典:野村泰子:広籐律子:他	2001 市販ピーナッツ関連祝ヒント輸入ピーナッツのアフラトキシン汚染調査(1970~1972)	51	2	115	121
500026	Mycotoxins 一戸正勝:斉藤朋子:岡野清志	2001 イラン産ピスタチオナッツのカビ毒生産菌の分布	51	2	109	114
500027	Mycotoxins 田端節子	2001 市販ピスタチオナッツのアフラトキシン汚染	51	2	87	93
500028	厚生省神経疾病研究年度研究報告書 亀山義郎:星野清:福井義浩:他	1984 環境要因による大脳発生異常の実験的研究 Ochratoxin A によるマウス大脳の発生障害	25	29		
500029	Nagoya Med J Futamura K	1988 Teratogenic effects of ochratoxin a on mutant small eye and cataractous mice	32	3-4	195	205
500030	日本公衆衛生雑誌 坪内春夫	1989 コーヒー豆のカビ毒汚染 -とくにオクラトキシン汚染について-	36	3	147	154
500031	環境医学研究所年報 福井義浩:星野清:早坂静:他	1986 Ochratoxin A のクモ膜下槽内投与によるマウス小脳发育障害について	37	267	270	

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500032	奈良医学雑誌 坪内春夫	1987	38	4	571	580
						オクラトキシンAおよびカフェインのマウス胎仔成長に及ぼす影響
500033	日本眼科科学会雑誌 大鹿智:白井正一郎:馬嶋昭生	1988	92	3	414	422
						Ochratoxin A による眼形成異常に関する研究(IV) -マウス胎仔の視神経乳頭部形成異常について-
500034	Mycotoxins Ueno Y	1998		47	25	32
						Residue and risk of ochratoxin A in human plasma and beverages in Japan
500035	厚生省神経疾患研究年度研究報告書 出生前要因による脳障害の成因並びに治療に関する臨床的基礎的 亀山義郎:星野清:福井義浩:他	1983			38	42
						環境要因による大脳発生異常の実験的研究 Ochratoxin A によるマウス大脳の発生障害
500036	マイコトキシン 蟹沢成好	1983		18	15	20
						オクラトキシンAの腎毒性と発癌性
500037	Congenit Anom (Kyoto) Hoshino K:Fukui Y:Hayasaka I:他	1988	28	4	287	294
						Developmental disturbance of the cerebral cortex of mouse offspring from dams treated with ochratoxin A during pregnancy
500038	名古屋大学環境医学研究所年報 伊藤米子:星野清:亀山義郎	1983	34		261	262
						マウスにおける ochratoxin A 連続経口投与の催奇形性
500039	名古屋大学環境医学研究所年報 星野清:伊藤米子:亀山義郎	1983	34		255	256
						Ochratoxin A の大脳皮質の発生、分化に及ぼす影響(第4報) -胎生期連続経口投与によるマウス大脳发育障害-
500040	名古屋大学環境医学研究所年報 福井義浩:星野清:早坂静:他	1983	34		253	254
						Ochratoxin A の大脳皮質の発生、分化に及ぼす影響(第3報) -胎生期単独腹腔内注射によるマウス大脳发育障害-
500041	名古屋大学環境医学研究所年報 福井義浩:早坂郁夫:伊藤米子:他	1983	34		249	252
						Ochratoxin A の大脳皮質の発生、分化に及ぼす影響(第2報) -マウス大脳外套の早期変化ならびに胎生末期の脳奇形の観察-
500042	犯罪学雑誌 茂木康一:竹下治男:安田年博:他	2003	69	1	14	20
						カエンタケ誤食によるきのこ食中毒死例:臨床経過および解剖所見
500043	総合臨床 田勢長一郎	1999	48	11	2613	2616
						【化学物質による健康障害】生活環境物 植物毒 -きのこ、青梅、じゃがいも、野草-
500044	Leg Med Gonmori K:Yoshioka N	2003	5	Suppl	S83	S86
						The examination of mushroom poisonings at Akita University
500045	中毒研究 藤郷秀樹:雨宮守正:伊藤千春:他	2000	13	1	73	77
						血漿交換が有効と考えられたアマニトキシン中毒の2症例
500046	Mycotoxins 熊谷進	2003	53	2	149	150
						JECFAによる評価

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ	標題
500047	マイコトキシン 芳澤宅實	2003	53	2	113	118	トリコテセン系マイコトキシンによるヒトの中毒事例
500048	Mycotoxins Tanaka T:Sugiura Y	2003	53	2	119	121	Levels and pattern of contamination with trichothecenes in cereal grains and their risk assessment
500049	Mycotoxins 日ノ下文彦	2003	53	2	123	127	トリコテセンの毒性影響としての腎障害
500050	Mycotoxins Gilbert J	2002	52	1	35	42	Priorities for mycotoxin research in Europe and the UK
500051	食品衛生研究 横田栄一	2004	54	3	7	10	りんごジュースおよび原料りんご果汁に含まれるパツリンに関する規格基準の設定
500052	食品衛生研究 田端節子	2004	54	5	15	16	日本におけるリンゴ加工品のパツリン汚染の現状とリスク
500053	Mycotoxins Murakami R:Yamamoto K:Noguchi T	1998		48	15	18	Toxicity and composition of paralytic shellfish poison(PSP) of toxicated bivalves in Ibaraki, Japan
500054	Mycotoxins 成田弘子:中村信也:窪田勉:他	1999		48	9	14	浜名湖産二枚貝の麻痺性貝毒による毒化
500055	Mycotoxins Kasuga F	1998		48	19	23	Cell bioassay — a trial to develop new assay system for paralytic shellfish poisoning toxins (PSPs) and ciguatoxins, and comparison with other newly developed assays for PSPs.
500056	Mycotoxins Ishida H:Tsuji K	1998		48	29	31	Sea-food poisoning caused by brevetoxins in New Zealand
500057	Mycotoxins Kamimura H	2000	50	2	111	117	Toxicological approaches of zearalenone
500058	Mycotoxins Ito Y	2000	50	2	119	124	Infertility caused by zearalenone, an endocrine disrupting substance
500059	Mycotoxins Okumura H:Yoshino N:Ihara T:他	2000	50	1	41	44	Induction of apoptotic cell death by trichothecenes
500060	Mycotoxins Shinozuka J:Doi K	2003	53	2	129	140	T-2 toxin-induced apoptosis in the mouse lymphoid and hematopoietic tissues
500061	Mycotoxins Ito Y	2000	50		119	124	Infertility caused by zearalenone, an endocrine disrupting substance

文献管理番号	出典 著者	発行年 標題	巻	号	開始ページ	終了ページ
500063	食品衛生学雑誌 平野進:鳥鶴三:島田智子	2001	42	4	237	242
					輸入ピーナッツ中のアフラトキシン汚染豆の割合とそのアフラトキシンB1濃度	
500065	食品衛生学雑誌 久田和夫:山本勝彦:坪内春夫:他	1984	25	6	543	548
					輸入及び国産ナチュラルチーズの Aflatoxin M1 汚染調査	
500066	Environ Med Fukui Y:Hoshino K:Kameyama Y	1983	27		41	49
					Microcephaly induced in mice by prenatal treatment with ochratoxin A	
500068	Mycotoxins 日ノ下文彦	2003	53	2	123	127
					トリコテセンの毒性影響としての腎障害	
500069	臨床皮膚科 石川博康:熊野高行:鈴木昌幸:他	2003	57	1	17	21
					カエンタケ中毒の1例	
500070	Mycotoxins 森悦男	1998		48	33	35
					川崎市における魚介毒の検査状況	
500071	兵庫県立衛生研究所研究報告 武田信幸	1993		28	25	26
					輸入食品中のアフラトキシン試験結果(平成3・4年度)	
500072	医学研究 河野昌彦	1986	56	1	31	34
					ツキヨタケ中毒の法医学的研究 -Illusin S (Lampterol) の検出について-	
500073	J Gen Appl Microbiol Roy AK:Chourasia HK	1990	36	5	295	302
					Mycoflora, Mycotoxin producibility and Mycotoxins in traditional herbal drugs from India	
500075	日本農村医学会雑誌 Kaku B:Igarashi Y:Morita T:他	1993	42	4	983	988
					A case of digitalis intoxication brought about by eating digitalis leaves by mistake	
500076	藤田学園医学会誌 柳生茂:伊藤充哉:松本和幸:他	1992	16	1	125	128
					モルモット及び兎に対するワラビの慢性毒性並びに発癌性	
500077	藤田学園医学会誌 伊藤充哉:柳生茂:荻野博司:他	1992	16	1	117	120
					ワラビ投与による羊の急性中毒及び網膜変性症	
500078	秋田県農村医学会雑誌 木曾典一:大場富雄:五十嵐卓:他	1986	32	1	7	10
					コンフリージュースと間違えてジギタリスジュース飲用によるジギタリス中毒の1例	
500079	食品衛生学雑誌 合田幸広:酒井信夫:中村高敏:他	1998	39	4	256	265
					モロヘイヤ種子中の主強心配糖体の同定、分析及び、マウスに対する経口毒性について	
500080	奈良医学雑誌 陰地義樹	1990	41	4	335	343
					ニバレノール(マイコトキシン)の代謝と毒性機構に関する研究 第二報。ラットにおけるニバレノールの吸収、代謝、排泄および毒性について	

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500081	食品衛生学雑誌 川崎靖:内田雄幸:関田清司:他	1990	31	2	144	154
					F344 ラットによる Nivalenol の単回及び反復経口投与毒性試験	
500082	Tohoku J Exp Med Musha M:Ishii A:Tanaka F:他	1986	148	1	73	78
					Poisoning by hallucinogenic mushroom hikageshibiretake( <i>Psilocybe argenitipes</i> K.Yokayama) indigenous to Japan	
500083	食品衛生研究 小西良子:高鳥浩介:久城真代:他	2004	54	5	19	20
					小麦玄麦中のDON(デオキシニバレノール)試験法のバリデーションと製粉、製造工程および調理での小麦中のDONの減衰に関する研究	
500084	Mycotoxins Sugita-Konishi Y	2001	51	1	37	40
					An approach to toxicity of <i>Fusarium</i> mycotoxin, DON: Use in co-culture system with human intestinal cells	
500085	Mycotoxins Ueno Y	2003	53	1	33	41
					Future scope of japanese association of mycotoxicology (2002 Japanese Association of Mycotoxicology Award)	
500086	臨床透析 岸川和弘:久米田幸弘	2002	18	8	1087	1090
					薬物・毒物中毒と血液浄化法(症例集) [中毒症例]トリカブ	
500087	行動科学 岡田佳奈:岡市広成	2003	42	2	121	126
					イボテン酸による海馬CA1損傷が空間記憶課題に及ぼす影響	
500089	薬事 辻川明子:石沢淳子:大橋教良	2001	43	1	155	158
					キョウチクトウ中毒	
500090	蛋白質・核酸・酵素 山田静之:小鹿一:木越英夫:他	1998	43	6	752	761
					ワラビ発癌物質 -化学研究とDNA修飾-	
500091	日本産科婦人科学会熊本地方部会雑誌 福田潤一郎:田代浩徳:新田慎:他	2002		46	102	102
					閉経後3年間にわたる植物性エストロゲン含有サプリメントの過剰摂取により子宮筋腫の増大がみられた一症例	
500092	臨床透析 大平聖爾:阿部憲司	2002	18	8	1095	1099
					薬物・毒物中毒と血液浄化法(症例集) [中毒症例]毒キノコ(テンゲダケ)	
500093	医学のあゆみ 香山不二雄:荒尾行知	2002	201	2	151	152
					内分泌攪乱物質研究の最前線 植物エストロゲン	
500094	中毒研究 藤田恭子:宮本正治:高田孝	2002	15	4	375	380
					<i>Sandersonia aurantiaca</i> の球根誤摂取によるコルヒチン中毒の1例	
500095	中毒研究 塩野茂:谷和孝昭:切通雅也:他	2003	16	4	543	544
					高カリウム血症、心室性期外収縮をきたし死亡したフクジュソウ(福寿草)中毒の1例	
500096	埼玉県医学会雑誌 田平佳子:八木洋:有賀仁:他	2000	34	3	489	491
					ウスムラサキシメジ中毒によりショック状態を呈した1例	

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500097	日本内科学会雑誌 藤山洋一:内藤真礼生:中村信:他	2002	91	7	2189	2191
					飲酒量に応じて重篤化したキノコ中毒の症例	
500098	食品衛生研究 衛藤加奈子:茶谷直子:工藤武直	2003	53	5	61	65
					保健所健康危機管理体制強化の取組み —ある食中毒事件事例をとおして—	
500099	神奈川県精神医学会誌 松本俊彦:宮川朋大:矢花辰夫:他	1999		49	74	75
					精神症状発現にマジックマッシュルーム摂取が関与したと考えられる2症例	
500100	日本中毒情報センター 石沢淳子:辻川明子:大橋教良	2000	42	2	385	388
					中毒症例シリーズ(85) シロシビン群のキノコによる中毒 —幻覚性キノコ—	
500101	鳥取医学雑誌 内田博:庄野敦子:岩倉秀雅:他	1999	27	3	172	174
					インターネット入手のマジック・マッシュルーム中毒例	
500102	日本農村医学会雑誌 水草貴久:細川嘉彦:中川宗大:他	2001	50	4	621	624
					オオシロカラカサタケ (Chlorophyllum molybdites) による集団毒キノコ中毒	
500103	近畿大学救命救急センター Takahashi H: Adachi Y: Matsui S: 他	1995	20	3	255	260
					Fulminant hepatic failure due to amatoxin	
500104	食品衛生学雑誌 池田三恵	2004	45	2	J161	J162
					食中毒等事件例 ハコフグ科魚類によるアオブダイ中毒様食中毒	
500105	食品衛生学雑誌 小西良子:高鳥浩介:田中敏嗣:他	2004	45	3	156	160
					市販 ELIDA キットによる玄麦中デオキシニバレノールの迅速簡易スクリーニング法の評価	
500106	Chem Pharm Bull (Tokyo) Terai T: Osakabe K: Katai M: 他	2003	51	3	351	353
					Preparation of 9-Hydroxy grayanotoxin derivatives and their acute toxicity in mice	
500107	北村山公立病院医学雑誌 佐伯和則:平澤泰宏:池田真人:他	2002	7		21	25
					トリカブト中毒の3例	
500108	Int Med Iwafuchi Y: Morita T: Kobayashi H: 他	2003	42	1	78	81
					Delayed onset acute renal failure associated with amanita pseudoporphyria hongo ingestion	
500109	日本集中治療医学会雑誌 渡辺博:伊藤洋:沓名理佳子:他	1998	5	4	407	410
					メチルジゴキシン大量誤飲症例の治療経験	
500110	日本救急医学会雑誌 山崎浩史:西山謹吾:片岡由紀子:他	2003	14	4	211	214
					バトリキシン様物質による集団中毒	
500111	和漢医薬学雑誌 Nagasaka K	2001	18	4	141	146
					Aconitine poisoning — determining the cause —	

文献管理番号	出典 著者	発行年 標題	巻	号	開始ページ	終了ページ
500112	Environ Med Okada K:Surjono TW:Kameyama Y	1984 Teratogenicity of single dose administration of rubratoxin B in ICR mice	28		81	84
500114	秋田県医師会雑誌 加賀義章:安宅芳春:池田成昭:他	1987 自生のジギタリスによる急性中毒の1例	39	1	73	77
500116	Kitasato Arch Exp Med Matsuura E:Fukimbara T:Kawahara H:他	1988 Studies on photodynamic action of chlorophyll derivatives - Phototoxicity of Pheophorbide-A on rats -	61	4	201	213
500117	J Toxicol Sci Kobayashi T:Yasuda M:Seyama I	1990 Developmental toxicity potential of grayanotoxin I in Mice and Chicks	15	4	227	234
500118	応用薬理 赤池雅司:大野広子:田中俊光:他	1995 Colforsin dapropate hydrochloride (NKH477) のラットにおける胎児の器官形成期静脈内投与試験	49	6	693	706
500119	食品衛生学雑誌 Ueno Y:Tanaka T:Hasegawa A:他	1986 Deoxynivalenol, nivalenol and zearalenone in scabby wheat from Shanghai, China	27	2	180	182
500120	精神神経学雑誌 武者盛宏:草野源次郎:田中文雄:他	1988 幻覚性キノコ・ヒカゲシビレタケ ( <i>Psilocybe argenticipes</i> ) 中毒について - ブシロシピン中毒時の自覚体験を中心に -	90	4	313	333
500121	薬事 山下衛:峰松澄穂:小林勇二郎:他	1987 マウスにおける杏仁エキスの急性毒性	29	6	1291	1294
500122	生活衛生 福本紘一	1993 ツツジ科植物の成分グラヤノトキシンによる中毒の最近の話題	37	6	237	247
500123	食品衛生学雑誌 川嶋陽子:長島裕二:塩見一雄	2002 肉食性巻貝唾液腺の毒性及びテトラミン含量	43	6	385	388
500124	食品衛生学雑誌 Hashimoto T:Matsuoka S:Yoshimatsu S:他	2002 First paralytic shellfish poison (PSP) infestation of bivalves due to toxic dinoflagellate alexandrium tamiyavanichii, in the Southeast Coasts of the Seto Inland Sea, Japan	43	1	1	5
500126	日本総合診療医学会会誌 徳田安春:雨田立憲	1999 シガテラ中毒により失神をきたした1例	4	1	24	25
500127	日本救急医学会雑誌 山崎浩史:片岡紀子:岡本健:他	2001 集団発生をみた、ハタ科の魚によるパリトキシン中毒	12	10	578	
500128	食品衛生学雑誌 淵祐一:帆足喜久雄:赤枝宏:他	1999 大分県国東沿岸産ヒガンフグ及びコモンフグの毒性	40	1	80	89
500129	食品衛生学雑誌 Mahmud Y:Tanu MB:Noguchi T	1999 First occurrence of a food poisoning incident due to ingestion of takifugu oblongus, along with a toxicological report on three marine puffer species in Bangladesh	40	6	473	480

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500130	食品衛生学雑誌 Akaeda H:Takatani T:Anami A:他	1998	39	4	272	274
					Mass outbreak of paralytic shellfish poisoning due to ingestion of oysters at Tamano-ura, Goto Islands, Nagasaki, Japan	
500131	静岡県衛生環境センター報告 成田弘子:浮島美之:増井俊夫:他	1984		26	85	87
					バイケイソウによる食中毒について	
500132	日本内科学会雑誌 垂水隆志:酒井勲:安田卓二:他	1990	79	12	1737	1738
					キノコ中毒による急性肝不全を呈した家族の剖検例	
500133	食品衛生学雑誌 Hamano Y:Kinoshita Y:Yasumoto T	1986	27	4	375	379
					Enteropathogenicity of diarrhetic shellfish toxins in intestinal models	
500134	衛生試験所報告 五十畑悦子:豊田正武:斎藤行生	1986		104	142	144
					マイコトキシンの化学分析に関する研究(第14報) 乳幼児食品中の Zearalenone の実態調査	
500135	食品衛生学雑誌 Ueno Y:Tanaka T:Hasegawa A:他	1986	27	2	180	182
					Deoxynivalenol, nivalenol and zearalenone in scabby wheat from Shanghai, China	
500136	北海道立衛生研究所報 田沢梯二郎:伊東拓也:石下真通:他	1999		49	140	141
					北海道北部オホーツク海沿岸海域産ホタテガイにおける下痢性貝毒の消長(II)	
500139	法中毒 権守邦夫:吉岡尚文	2002	20	2	234	235
					秋田大学におけるきのご中毒検査例	
500140	食品衛生学雑誌 石月要平:上村桂:岩崎康男:他	1982	23	2	221	222
					ジギタリスによる食中毒(昭和53年) コンフリーと誤認した事例	
500141	食品衛生学雑誌 松浦栄一:斎藤由美子:石田博子:他	1982	23	5	365	372
					フェオホルバイドa投与ラットの光照射による中毒発現と血液成分の変動	
500142	北陸公衆衛生学会誌 中川昭忠:大江勇:水馬博:他	1984	11	1	41	45
					ジギタリス葉による植物性自然食中毒の一例	
500143	食品衛生学雑誌 吉岡弘:若山隆文:田原功	1983	24	5	508	509
					アブラギリの種子による食中毒	
500144	山形県衛生研究所報 笠原義正:村田敏夫:辻浩子:他	1993		26	9	15
					ツキヨタケの毒性について(第2報)	
500145	J Toxicol Sci Hibino T:Arai M	1981	6	3	245	246
					Experimental study of species differences of acute toxicity of the kidney induced by citrinin	
500146	岩手県衛生研究所年報 大矢学:菅原隆志:中野克彦:他	2002		43	68	69
					岩手県山田湾海域産ホタテガイの下痢性貝毒成分について	

文献管理番号	出典 著者	発行年 標題	巻	号	開始ページ	終了ページ	
500147	山形県公衆衛生学会第26回講演集 本間弘樹:笠原義正:伊藤健:他	2000		80	82	チヨウセンアサガオによる食中毒の原因物質究明	
500148	Proc Jpn Assoc Mycotoxicol 長谷川明彦:田中敏嗣:山本進:他	1987	26	37	41	輸入ピーナッツから分離した O-methylsterigmatocysin 生産性 Aspergillus parasiticus について	
500149	Proc Jpn Assoc Mycotoxicol Kalantari HG:Zong MS:Chang I-M	1989	30	32	34	Assay of T-2 toxin contamination in domestic and imported agricultural products in Korea	
500150	Proc Jpn Assoc Mycotoxicol 堀江義一:西村和子:宮治誠:他	1991	34	15	21	中国山東省土壤中の Aspergillus 属マイコトキシン生産菌とその発ガン性マイコトキシンの生産性	
500152	日本救急医学会東海地方会誌 田中茂:亀井健	2000	4	1	50	有毒山菜誤食による急性アコニチン中毒の1例	
500153	J Oleo Sci Hayamizu K:Ishii Y:Kaneko I:他	2002	51	5	365	369	No-Observed-Adverse-Effect Level (NOAEL) and Sequential-High-Doses administration study on garcinia cambogia extract in Humans
500154	手稲溪仁会病院医学雑誌 武藤晴達:森下由香:早川達也:他	2002	5	1	57	60	軽症トリカブト中毒の1例
500155	Mycotoxins Tatsuno T	1997	45	11	12	Scabby wheat intoxication and discovery of nivalenol (a review)	
500156	家畜診療 宮崎茂	2003	50	3	175	188	飼料を汚染するマイコトキシンとその中毒について
500157	J Toxicol Pathol Lee M-J:Ogata S:Yamanouchi J:他	1995	8	2	107	115	Subacute hepatotoxicity of T-2 toxin in mice
500158	Mycotoxins Gao H-P:Yoshizawa T	1997	45	51	55	Further study on Fusarium mycotoxin in corn and wheat from a high-risk area for human esophageal cancer in China	
500159	Mycotoxins Sugiura Y:Tanaka T	1997	45	21	23	Fusarium species responsible for the contamination of wheat and barley with nivalenol in Japan	
500161	Chem Pharm Bull (Tokyo) Suzuki K:Fujimoto H:Yamazaki M	1983	31	6	2176	2178	The toxic principles of naematoloma fasciculare
500162	Agric Biol Chem Kumagai M:Yanagi T:Murata M:他	1986	50	11	2853	2857	Okadaic acid as the causative toxin of diarrhetic shellfish poisoning in Europe
500163	Proc Jpn Assoc Mycotoxicol 伊藤美武:大坪浩一郎	1984	20	33	35	未成熟期投与による zearalenone のマウス繁殖機能に及ぼす影響	

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500164	J Toxicol Pathol Quiroga MA:Doi C:Han J-S:他	1991	4	1	35	44
					Acute hepatotoxicity of T-2 toxin in mice	
500165	食品衛生学雑誌 Chimi K:Taba N:Katsuda S:他	1985	26	5	471	476
					モルモット摘出腸管の運動に及ぼす麻痺性貝毒の影響	
500166	衛生化学 浅川学:高木光造	1984	30	1	19	22
					北海道噴火湾産のムラサキガイに含まれる麻痺性貝毒について	
500167	臨床今治 白石天三	2002	14	1	11	14
					頻回の心停止をきたした重症ふぐ中毒の1例	
500168	Mycotoxins Zhang H:Nagashima H:Goto T	1997		44	29	35
					Natural occurrence of mycotoxins in corn, samples from high and low risk areas for human esophageal cancer in China	
500169	名古屋市衛生研究所報 坪内春夫:久田和夫:寺田久屋:他	1985		31	77	80
					食品中の Mycotoxin に関する研究(第7報) シトリニンを検出したカビ・ソバ麵の一事例について	
500171	Proc Jpn Assoc Mycotoxicol 成田紀子:鈴木明子:菊池裕:他	1992		36	39	44
					ハトムギおよびハトムギ製品の糸状菌とゼアラレノン汚染原因菌	
500172	栃木県衛生研究所所報 吉沢朋子:中村洋子:鈴木洋一	1987		17	87	88
					ビール麦のニバレノール汚染について	
500173	千葉県衛生研究所研究報告 矢崎廣久:高橋治男:七山悠三	1982		6	6	9
					マイコトキシンに関する研究 Penicillium verrucosum var. verrucosum による貯蔵食肉のカビ毒汚染について	
500174	宮崎県衛生環境研究所年報 小坂妙子:小野英俊:山本雄三:他	2004		14	53	56
					LC/MSIによるジギタリス葉中のジギトキシン及びギトキシンの分析	
500176	食品衛生研究 高鳥浩介:酒井綾子:花澤良:他	2004	54	5	20	21
					国産米の真菌汚染調査およびマイコトキシン汚染のリスク	
500178	食品衛生研究 Brown RL:Chen Z-Y:Cleveland TE:他	2004	54	5	17	18
					アフラトキシン産生菌に対するトウモロコシ抵抗性因子の同定と評価のその後の進歩	
500179	食品衛生研究 田中健治:佐藤剛:齊藤初雄	2004	54	5	16	17
					コムギへのトリコテセン系マイコトキシンの汚染防止	
500180	食品衛生研究 Voss KA:Norred WP	2003	53	5	16	17
					調理法によるフモニシンの in vivo および in vitro 活性評価	
500181	Mutat Res Nagao T:Saito K:Hirayama E:他	1989	216	2	173	178
					Mutagenicity of ptaquiloside, the carcinogen in bracken, and its related illudane-type sesquiterpenes I. Mutagenicity in Salmonella typhimurium	

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500182	Life Sci Kwak S:Aizawa H:Ishida M:他	1991	49	14	PL91	PL96
					Systemic administration of acromelic acid induces selective neuron damage in the rat spinal cord	
500183	Xenobiotica Tanaka K:Inoue T:Kanai M:他	1994	24	12	1237	1243
					Metabolism of illudin S, a toxic substance of <i>Lampteromyces japonicus</i> . IV. Urinary excretion of an illudin S metabolite in rat	
500184	Arzneim-Forsch./Drug Res Mengs U:Clare CB:Poiley JA	1991	41	11	1076	1081
					Toxicity of <i>Echinacea purpurea</i> Acute, subacute and genotoxicity studies	
500185	J Emerg Med Ceha LJ:Presperin C:Young E:他	1997	15	1	65	69
					Anticholinergic toxicity from nightshade berry poisoning responsive to physostigmine	
500186	応用薬理 小池恒雄:長瀬孝彦:藤村高志:他	2003	65	1-2	39	41
					有機酸処理マイタケ粉末 (SF73号) のラットを用いた単回経口投与と毒性試験	
500187	Fundam Appl Toxicol Chan PC:Sills RC:Braun AG:他	1996	30	1	109	117
					Toxicity and carcinogenicity of $\Delta^9$ -tetrahydrocannabinol in fischer rats and B6C3F1 mice	
500188	食品衛生学雑誌 福渡努:杉本悦郎:柴田克己	2001	42	3	190	196
					ドクササコ ( <i>Clitocybe acromelalga</i> ) の投与がトリプトファン-ナイアシン代謝に及ぼす影響	
500189	Forensic Sci Int Sticht G:Kaferstein H	2000	113	1-3	403	407
					Detection of psilocin in body fluids	
500190	Toxicol Lett Crawford L:Kocan RM	1993	66	2	175	181
					Steroidal alkaloid toxicity to fish embryos	
500191	J Toxicol Clin Toxicol Hornfeldt CS:Collins JE	1990	28	2	185	192
					Toxicity of nightshade berries ( <i>Solanum dulcamara</i> ) in mice	
500192	Forensic Sci Int Yoshioka N:Gonmori K:Tagashira A:他	1996	81	2-3	117	123
					A case of aconitine poisoning with analysis of aconitine alkaloids by GC/SIM	
500193	Toxicon Faulstich H:Kirchner K:Derenzini M	1988	26	5	491	499
					Strongly enhanced toxicity of the mushroom toxin $\alpha$ -amanitin by an amatoxin-specific fab or monoclonal antibody	
500194	最新医学 大和田章:篠原紳介:福留裕一郎:他	1990	45	3	605	609
					鯉の胆嚢摂取による急性腎不全の2例	
500195	腎と透析 平尾修:沼部敦司:阿部寛:他	1988	24	6	1027	1030
					鯉の胆嚢生食による急性腎不全の1例	
500196	別冊日本臨牀領域別症候群 上村尚	1999		27pt2	676	678
					V.中毒性疾患(薬物・化学物質)自然毒 キノコ毒	

文献管理番号	出典 著者	発行年	巻	号	開始ページ	終了ページ
500197	胸部外科 大内真吾: 泉本浩史: 鎌田潤也: 他	2000	53	7	541	544
					体外循環を用いたトリカブト中毒の救命令	
500198	日本内科学会雑誌 山本良高: 脇坂治: 藤元昭一: 他	1988	77	8	1268	1273
					鯉の胆嚢摂取による急性腎不全 - 自験例3例の症例報告ならびに本邦報告例の臨床的分析	
500199	日本透析療法学会雑誌 大矢晃: 山口哲: 小倉泰伸: 他	1990	23	3	261	265
					鯉の胆嚢生食による急性腎不全の1例	
500200	J Trop Med Hyg Chan TYK: Tomlinson B: Chan WWM: 他	1993	96	1	62	63
					A case of acute aconitine poisoning caused by chuanwu and caowu	
500201	Arch Toxicol Sutlupinar N: Mat A: Satganoglu Y	1993	67	2	148	150
					Poisoning by toxic honey in Turkey	
500202	J Toxicol Clin Toxicol Lin T-J: Hsu C-I: Lee K-H: 他	1996	34	1	87	92
					Two outbreaks of acute tung nut ( <i>Aleurites fordii</i> ) poisoning	
500203	Clin Pediatr (Phila) Schwartz RH: Smith DE	1988	27	2	70	73
					Hallucinogenic mushrooms	
500204	日本食品衛生学会82回学術講演会講演要旨集 谷山茂人: 寺田正光: 高谷智裕: 他	2001			62	
					アオブダイ・ハタ科魚類などによる食中毒に関連して底生性渦鞭毛藻 <i>Ostreopsis</i> sp. の毒の性状について	
500205	日本呼吸器学会雑誌 宮崎洋生: 源馬均: 小清水直樹: 他	2003	41	11	827	833
					エリンギ茸による職業性過敏性肺臓炎の1例	
500206	Can Med Assoc J Raff E: Halloran PF: Kjellstrand CM	1992	147	9	1339	1341
					Renal failure after eating "magic" mushrooms	
500207	Int J Legal Med Bogusz MJ: Maier R-D: Schafer AT: 他	1998	111	3	147	150
					Honey with <i>Psilocybe</i> mushrooms: a revival of a very old preparation on the drug market?	
500208	J Toxicol Clin Toxicol Gabscek L: Lesnicar G: Krivec B: 他	2004	42	1	85	88
					Accidental poisoning with autumn crocus	
500209	Forensic Sci Int Musshoff F: Madea B: Beike J	2000	113	1-3	389	395
					Hallucinogenic mushrooms on the German market - simple instructions for examination and identification	
500210	Can J Physiol Pharmacol Mills JT	1990	68	7	982	986
					Mycotoxins and toxigenic fungi on cereal grains in western Canada	
500212	Mycotoxins Tanaka T: Sugiura Y	2003	53	2	119	121
					Levels and pattern of contamination with trichothecenes in cereal grains and their risk assessment	

